

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言/未来部会の開催～会員増強施策に焦点～ … P1
- 第14回 業界景況調査の結果について … P2,P3,P4
- 関東ブロック会議の開催結果/賀詞交歓会への出席/【ご報告】事務所の移転について … P5
- 2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業12月出荷状況と今期累計 /12月新車販売・使用済自動車発生台数 … P6
- 2024年鉄スクラップ業界の見通し … P7 □鉄スクラップ最新情報 … P8
- 行事予定・お知らせ/編集後記 … P9

vol. **178**

未来部会の開催～会員増強施策に焦点～

01

2024年1月17日(水)第3回未来部会(対面)が開催されました。未来部会では今年度から機構が掲げている“**会員増強活動**”と“**若手経営者の育成**”について吉岡未来部会長を筆頭に継続して施策の検討を行っています。今回の部会で決定した事項をご紹介します。



【部会の様子】

①JAERA リーフレットの作成

入会の促進を目的に、機構の活動目的や内容、業界内での役割などを正しく理解してもらう入会促進のツールとして「**JAERA リーフレット**」の作成が決定しました。(2024年6月まで完成予定)

②【会員限定】事業所見学会・勉強会の開催

変化が著しい自動車業界、自動車解体業界も今後この変化の波に対応していくことが求められます。このような状況で、現在、先進的に取り組みを行っている**解体事業所の見学会**を開催いたします。(2024年9月頃)

また、今後の業界を担う新入社員に、“解体業界とはどんな業界か”、“自動車リサイクル法とは何か”など、この業界に関する教育に苦慮されている事業者の方も多いかと思います。自動車リサイクル士講習会の受講も新入社員向けの教育としてお使いいただけますが、より**新入社員向けに特化した勉強会**の開催を今回決定しました。(2024年7月頃)

今後の取り組みについて ～未来部会より～

業界団体としての**発言力強化のためには会員数の増強は必須**です。今後、“会員増強活動”については未来部会のみならず、広報部会、リサイクル技術部会と連携を行いながら進めつつ、いずれ機構全体で取り組むべき活動であると考えております。今回のリーフレット作成をスタートとして、今後も会員増強活動の施策を検討しつつ、実績もしっかりと上げていきたいと思っております。

今後、会員の皆様にもご協力をお願いすることもあるかと思っておりますので、その折はよろしくお願い申し上げます。

巻頭言

2024年1月に電子帳簿保存法(電帳法)が始まり、各税法で保存が必要な帳簿や国税関係書類を電子データで保存するようになりました。電帳法の主な保存区分は、①電子帳簿等保存、②スキャナ保存、③電子取引データ保存の3種類に分けられ、あくまで領収書などを紙ではなくデータで受け取った場合等だけが対象です。

昨年はインボイス制度も始まり、経理をはじめ社内でのルール整備等で非常に多くの時間を費やしました。今年の秋には郵便料金が値上げされるという報道もあり、はがきの郵送料金は63円から85円に上がるそうです。鹿児島種子島行の海上輸送も、燃料価格変動調整で車両運搬の運賃が変更になりました。今年も経費や輸送運賃の上昇が予想されますが、経費等の見直しを含め更なる努力を行い、今後の環境の変化に対応出来るように備えていきたいと思っております。

〈広報部会 伊地知 志郎〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004 東京都港区新橋2丁目11-10
BUREX FIVE 708
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: http://www.elv.or.jp/

第14回 業界景況調査の結果について

集計・分析：長崎大学経済学部 教授 木村眞実

02

■景況調査の報告に当たしまして

景況調査の意義を問われることがあります。ご参考までに、他の景況調査について紹介いたします。他の組織・団体における景況調査では分析結果を記述しているものもあり、身近な調査としては『同友会景況調査報告 DOR(Doyukai Research)』がございます。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、DORは中小企業家同友会全国協議会による調査で、各地域の同友会でも調査がされています。たとえば、熊本県中小企業家同友会の調査では、毎回の調査項目に加えて、地域トピックに応じた「特別調査」も行っています(<http://doyu-kumamoto.gr.jp/keikyo/>)。他の組織の調査も、本調査でも、会員企業の回答が調査を支えていますので、今後も本調査への皆様からのご協力を得たいと考えております。

今回の調査結果についての詳細や解説などは、以下の「報告書版」からご覧ください。

報告書版はこちら ▶ <https://www.elv.or.jp/media/20/20240122-keikyo14.pdf>

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第14回 景況調査報告 2023年10～12月期(概要版)

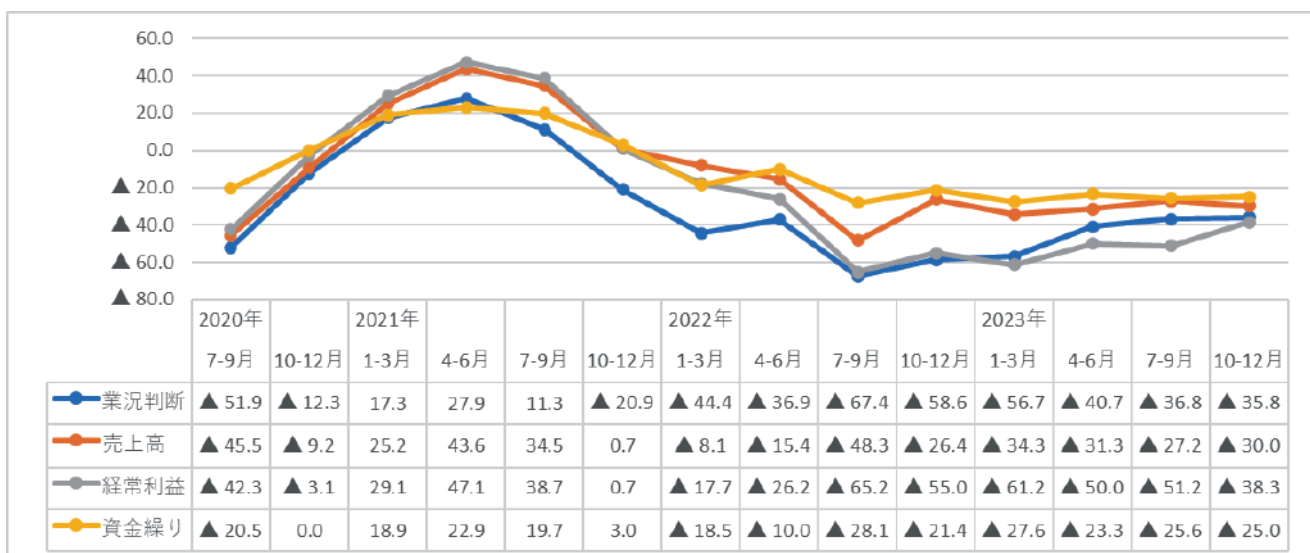
経常利益は12.9ポイント好転 他は、ほぼ横ばい

【調査要領】

- ①調査時:2023年2月13日(水)～12月27日(水)
 - ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
 - ③調査の方法:FAX・Webの送受信による自計記入を求めた
 - ④回答企業数:459社のうち120社(26.0%)から回答を得た(うち、有効回答数120)
 - ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 37.8人(前回39.1人)
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 15.6人(前回 14.0人)
- ※DI値(DI: Diffusion Index)「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

図1は第1回景況調査(2020年7-9月期)から第14回景況調査(2023年10-12月期)までの、前年同期比のDI値の推移である。経常利益については、前回(2023年7-9月期)と比べて12.9ポイント好転したが、業況判断は1ポイント好転、売上高は2.8ポイント悪化、資金繰りは0.6ポイント好転で、ほぼ横ばいと言える。

図1 前年同期比でのDI値の推移

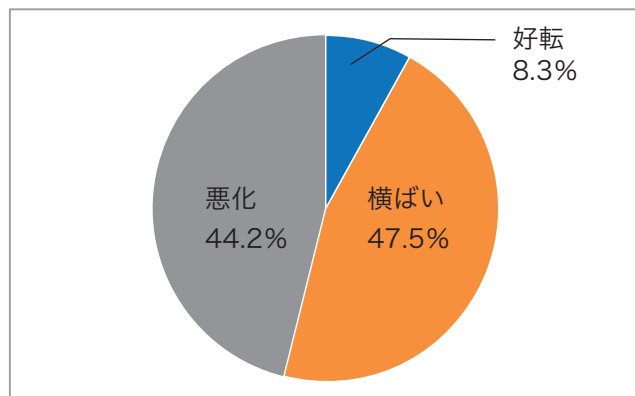


(1) 概況（業況判断・売上高・経常利益・資金繰り）

2023年10～12月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期（2022年10～12月比）との比較が図2から図5である。

回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△35.8（前回△36.8）、売上高が△30.0（前回△27.2）、経常利益が△38.3（前回△51.2）、および資金繰りが△25.0（前回△25.6）であった。

図2 前年同期(22年10-12月)比 業況判断：DI値△35.8



注：グラフ値から算出したDI値は端数処理により差異がございます。

図3 前年同期(22年10-12月)比 売上高：DI値△30.0

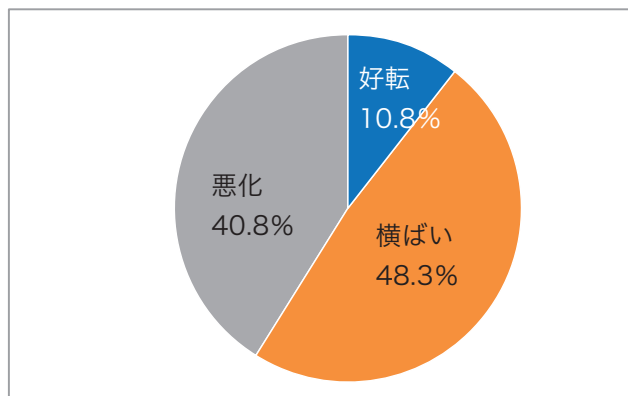


図4 前年同期(22年10-12月)比 経常利益:DI値△38.3

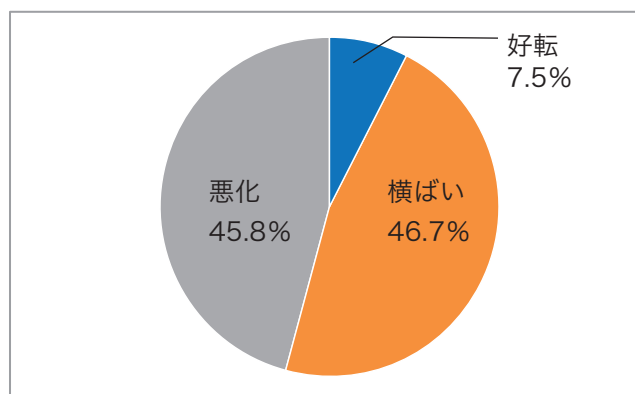
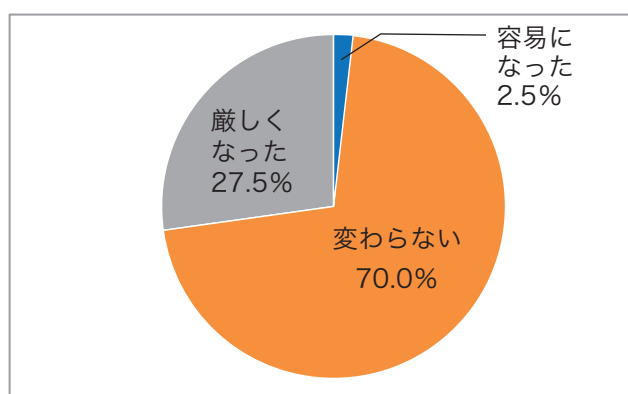


図5 前年同期(22年10-12月)比 資金繰り:DI値△25.0



(2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

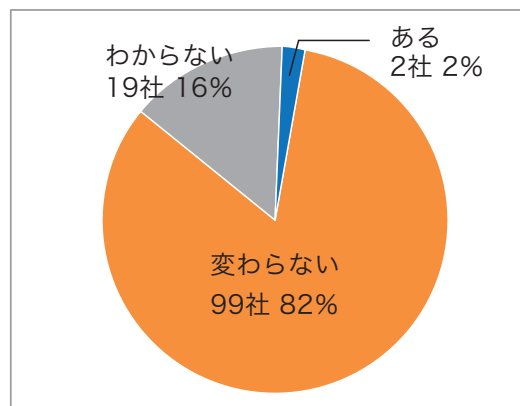
2023年10～12月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が2社・2%（前回5社・4%）であり、「変わらない」が99社・82%（前回104社・83%）であった（図6参照）。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢1社（前回1社）、その他1社（前回1社）であった（表参照）。

表 金融機関の姿勢変化の内容（複数回答可）

貸付攻勢	1社
その他（外国送金の入金が遅くなった）	1社

図6 金融機関の姿勢変化



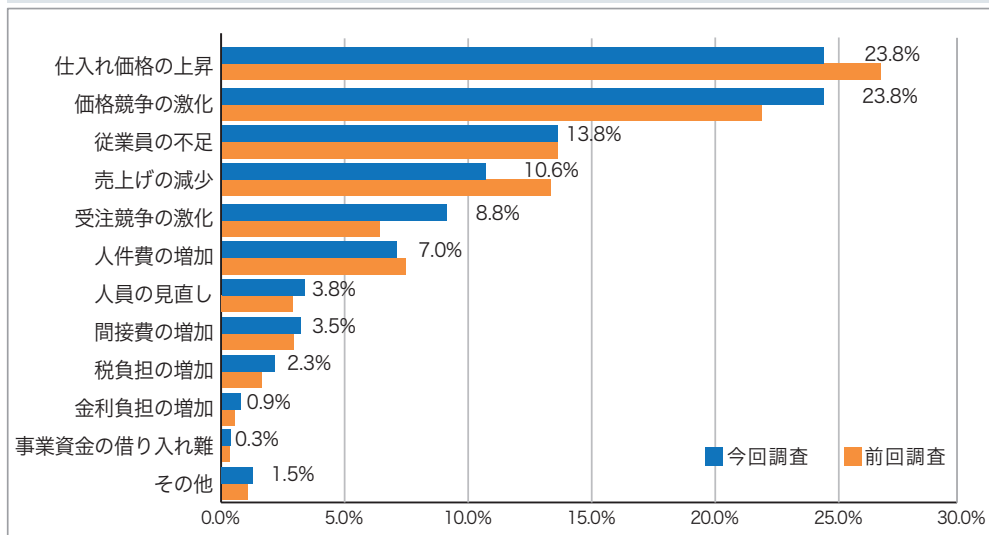
(3) 経営課題と取り組み等

①経営課題

2023年10～12月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇(81社・23.8%)、価格競争の激化(81社・23.8%)、従業員の不足(47社・13.8%)が上位であった(図7参照)。

なお、経営上の課題のうち「その他」の回答としては以下があった。※原文のママ掲載
・円安・仕入車両の減少・使用済車仕入難・取扱量の減少・品物が少ない

図7 経営上の課題（上位3つまでの複数回答）

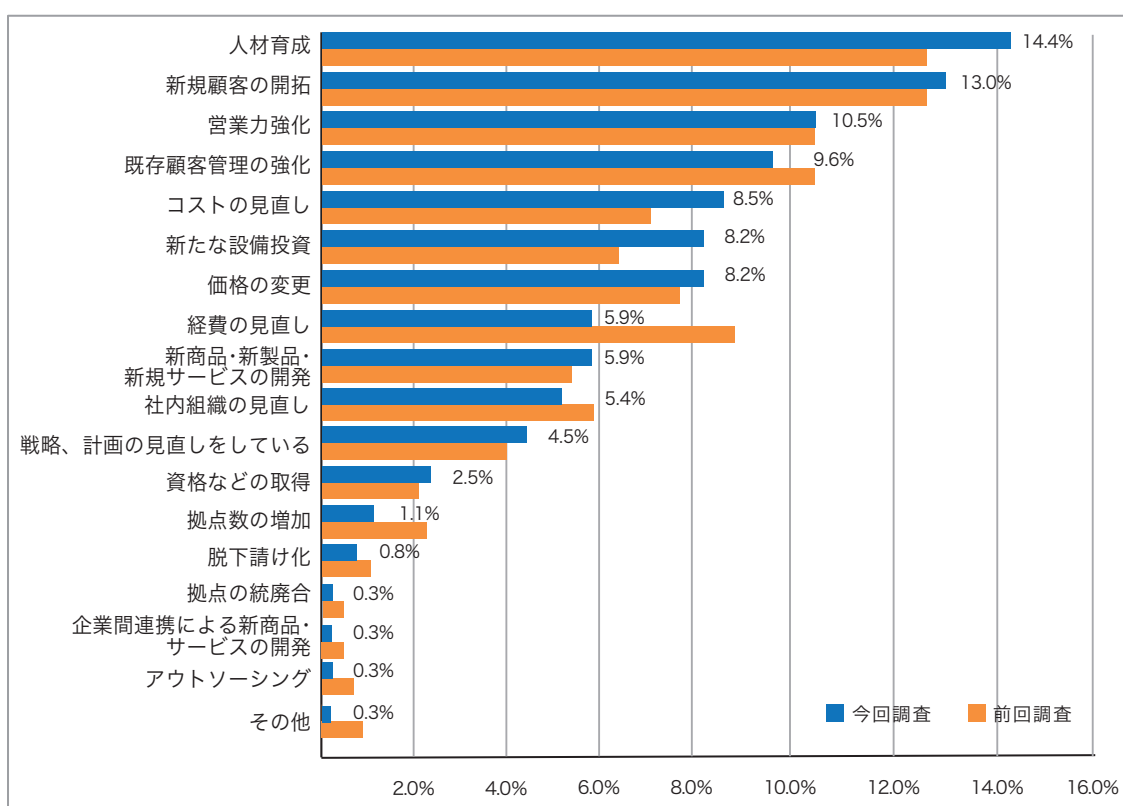


②現在の取り組み

2023年10～12月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、人材育成(51社・14.4%)、新規顧客の開拓(46社・13.0%)、営業力強化(37社・10.5%)であった(図8参照)。

なお、その他の回答として、以下があった。
※原文のママ掲載
・社員の募集

図8 現在取り組んでいること（上位3つまでの複数回答）



③お困りごと、ご意見等の自由記述

自由記述として以下の回答があった。※原文のママ掲載 ※「特になし」の回答を除く

- ・オークションの買取がスクラップ以上になっている
- ・国のほうであまりお金を配らないでほしい
- ・仕入れ価格が落とせず営業利益が悪化している
- ・人材の高齢化。若い人が募集しても来ない
- ・電帳法対応に大変な手間がかかります
- ・無資格業者、違法業者の摘発・排除をお願いします。違法業者による仕入れで価格上昇に歯止めが掛からない。また華僑、中国人業者の乱立でビジネスモデルが崩壊寸前です。有価物として仕入れをしているので古物商しか持たない業者が多すぎです。

■事務局より

次回2024年1～3月期の調査につきましては、2024年3月後半で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

関東ブロック会議の報告

2024年1月24日(水)に関東ブロック会議がForum S 5 東洋海事ビル(東京都港区)で開催され、機構本部から酒井代表、木内副代表、事務局が参加しました。会議では、機構本部からの重要な報告として、事務所移転に関する情報が共有されました。新たな事務所の選定プロセスや移転スケジュールについて、事務局から詳細な説明がありました。また、ブロック・支部活動費の新たな取り決めに関する説明が行われ、様々な視点からの質疑応答が行われました。会議後半では、各支部の状況報告が行われ、各支部の困りごとを中心としたディスカッションが行われました。

賀詞交歓会への出席

一般社団法人日本鉄リサイクル工業会

2024年1月11日(木)にロイヤルパークホテル(東京都中央区)で開催され、機構からは石井副代表、阿部参与、京野事務局員が参加しました。総勢約470名が一堂に会する華やかな雰囲気の中で始まり、終始参加者の方々のお話が尽きない賑やかな会となっていました。会議後半では、各支部の状況報告が行われ、各支部の困りごとを中心としたディスカッションが行われました。



【木谷会長のご挨拶】

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会

2024年1月25日(木)にホテルインターコンチネンタル東京ベイ(東京都港区)で執り行われ、酒井代表、木内副代表、奥野事務局長、阿部参与、京野事務局員が参加しました。会場から一望できるレインボーブリッジを横目に見ながら、優雅な雰囲気の中で参加者同士の会話も弾んでいました。



【酒井代表のご挨拶】

【ご報告】事務所移転について

機構本部の事務所移転が正式に決定されました。移転先は、以前の事務所からほど近い「虎ノ門アサヒビル」3階となります。

■住所：〒105-0003 東京都港区西新橋1-11-3

JR新橋駅の日比谷口から徒歩7分程度の距離となります。(隣のトヨタレンタカーが目印です！)

移転は2月中旬～3月上旬を予定しており、こちら決まり次第再度皆様へご案内をさせていただきます。よろしくお願いいたします。



【虎ノ門アサヒビル】

■ニュースレター購読申し込み

【登録】右のURLからお申込み下さい▶ <https://forms.office.com/r/vast5G9cq9>

ニュースレターへのご意見・ご要望・情報提供はこちらから▶

<https://forms.office.com/r/eZgintdcVZ>



2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 12月出荷状況と今期累計

06

上段：12月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204	クラウン HV AWS210
26	17	36	2	0	52	0	2	1
66	78	338	5	0	494	13	8	7

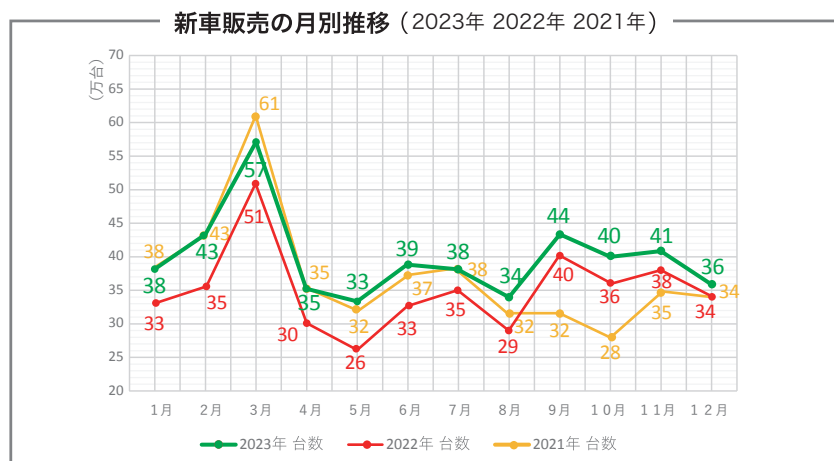
SAI/ レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品 A-C	合 計
1	1	5	3	0	0	0	5	125
9	61	21	6	3	0	1	153	1197

□2022年度の結果はこちら▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

12月新車販売・使用済自動車発生台数

07

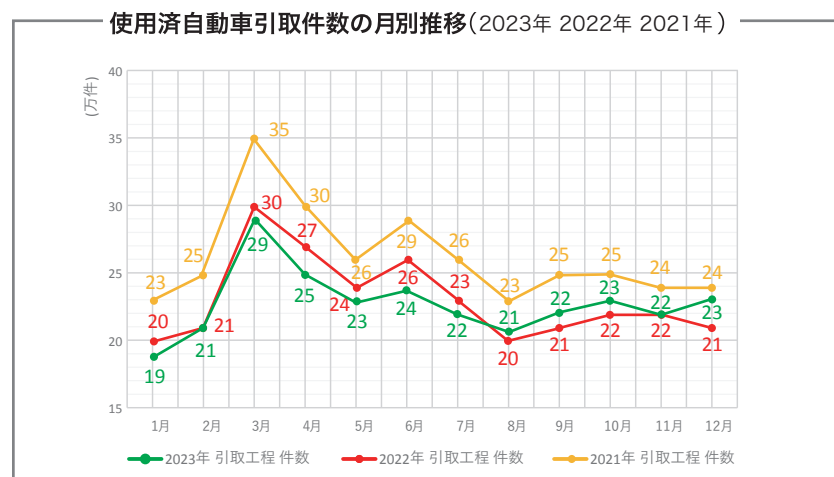
■2023年12月度 新車販売台数 362,839台 (前年同月比105.4%)



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2023年 (12月まで)	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

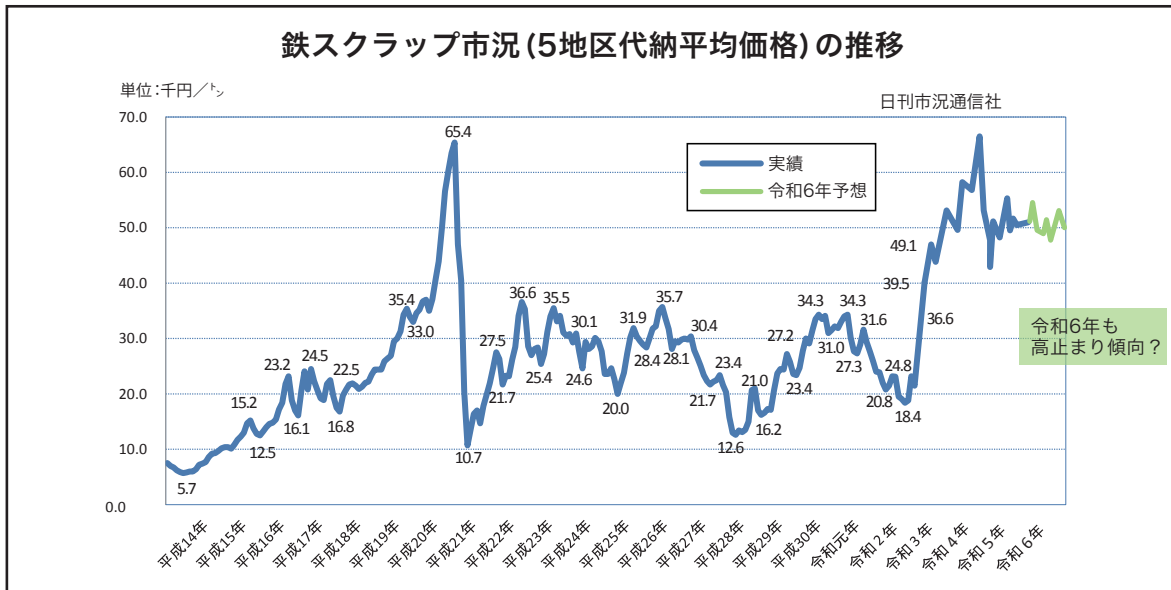
※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2023年12月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数	
12月	227,197件 (前年同月比105.9%)
フロン回収工程	
12月	202,003件 (前年同月比105.9%)
解体工程	
12月	233,310件 (前年同月比105.4%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター



2024年も当面は堅調感を保ちながら推移

2023年の鉄スクラップ市況は、内外とも小幅な値動きに終始した。国内H2相場の年間の値動き幅は最大でも1万円を下回る水準だった。戦争やテロなどを背景に世界経済が減速。鋼材需要が伸び悩む中、原料相場には常にと下へと押し下げる力が加わっている。一方で、世界的な資源・エネルギー高は上へと押し上げる逆方向の力を加えている。両者の力が均衡していることが、値動きの幅を狭める要因となり、現時点でもその状況が続いている。

世界鉄鋼協会（WSA）が10月に発表した短期予測によると、2023年の世界の鋼材見掛け消費量は前年比1.8%増の18億1450万ト。2024年は同1.9%増の18億4910万トと2年連続で増加する見通しだ。世界経済がそれほどの力強さを取り戻すことが出来るかどうかは、現時点では不透明だ。ロシア・ウクライナ、中東などの情勢不安、資源・エネルギー価格の高止まり、中国経済の動向など、世界経済の不安定要因は依然として数多い。冷静に状況を判断していく必要がある。

日本鉄鋼連盟は12月20日、24年度の鉄鋼需要見通しを発表した。鉄鋼内需は前年度比横ばい圏内で推移する見通し。22年度の国内粗鋼生産量は約8784万ト。23年度は前年度を下回り、24年度は横ばいの見通しだ。

23年度は、世界経済の減速や物価高の中でも底堅く推移した。物価高で個人消費の回復が遅れている。人手不足、DX、脱炭素やサプライチェーンの見直しなどの旺盛な需要があるが、世界経済の減速で投資を先送りする動きも見られる。輸出は、自動車が半導体不足解消に伴い回復。好調なインバウンド需要なども増加に寄与した。24年度は、内需主導による回復も世界経済の減速が下押しとなる。実質賃金の改善で個人消費は回復。設備投資は前年同様の需要があるが、世界経済の減速が下押しとなる。輸出は、世界経済の減速などで鈍化の見通しだ。

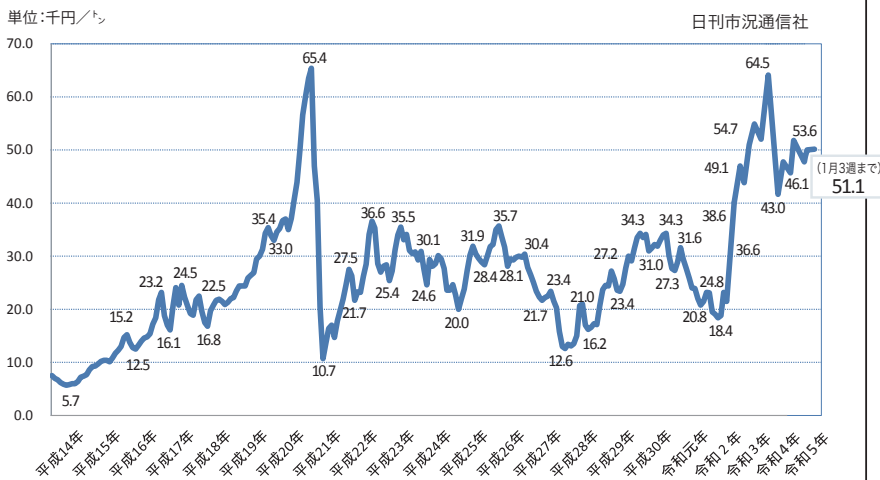
トルコやアジアの鉄スクラップ（米HMS）輸入価格は、ロシア・ウクライナ戦争に伴う急騰・急落後、1トあたりCFR400ドルを挟んで上下する相場展開が続いている。2023年11月から国際相場は上伸局面となったが、12月中旬に至り、上げ一服し、その後は2024年1月前半に値を上げたが、再び様子見の展開となっている。

日本国内も同様に安定した相場展開が続いた。東京製鉄の2023年の特級購価格の改定回数は拠点別に16～19回。前年の43～50回（名古屋サテライトヤード除く）に比べて半分以下の改定回数だった。価格変動幅は、前年の23,500～25,500円に対し、2023年は8,000～9,500円にとどまった。12月下旬時点の状況から見て、鉄スクラップに思惑が入り込む余地は少なく、上がり過ぎず、下がり過ぎない、相場展開が当面続きそうだ。2024年も当面は堅調感を保ちながら推移することが考えられ、H2の炉前価格は概ね5万円前後から5万円台前半の範囲内での動きとなりそうだ。

（当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本自動車リサイクル機構は一切の責任を負いません。）

1月第4週(24日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



1月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	51,500～53,000	様子見
	南関東	51,500～53,000	様子見
	浜値	51,500～52,500	様子見
名古屋		51,500～53,000	様子見
関西	大阪	51,500～54,000	強保合い
	姫路	52,500～53,500	様子見

国内市場 上伸後も各地区で堅調さ

国内市場の鉄スクラップ市況は1月17日以降、需要家筋の値上げ改定が広がっており、各地区とも堅調な相場展開となっている。関東市場など一部で1,000円の値上げにとどめた需要家筋もあるが、値上げ幅は全国的に概ね2,000円どころ。H2相場は、北海道を除き全国的に下値も5万円台に乗せている。

海外・輸出市場の堅調な推移を受けて、国内相場は大幅な値上がりを見せた。しかし、海外市場ではトルコの鉄スクラップ輸入価格が上げ一服し、小幅に値下がりする動きを見せている。急落する状況にはないものの、国内需要家筋にとっては、追加で値上げ改定する要因の一つがなくなりつつある。

ただ、主要国の粗鋼生産量が回復傾向にあり、原料である鉄スクラップの需要量も増加しており、鉄スクラップ相場は世界的に底堅さを残した展開を続けている。また、為替相場はやや円安気味に推移しており、19日時点では1ドル=149.19円(TTS)と、関東鉄源テンドーの実施日17日の1ドル=146.91円(TTS)からは2.28円の円安となっている。円安は、円建て価格を押し上げる効果があり、このまま円安傾向が続けば、国内相場を下支えする要因の一つとなる。需給双方とも現時点では、当面の動向を様子見する姿勢だ。

【関東地区】 一部電炉の荷止・荷受制限続く

関東市場では、一部電炉の鉄スクラップの荷止や荷受制限が依然として続いている。このため出荷先が狭まっており、品種別や局地的に荷余り感が生じている。ただ、需要家筋はそれぞれ1,000～2,000円値上げ後の購入価格を維持しており、鉄スクラップ相場は様子見商状の推移となっている。H2炉前実勢価格は51,500～53,000円中心。H2浜値は51,500～52,000円中心、高値52,500円見当。シッパー筋で引き合いを強める筋がある。

【東海地区】 1月中旬のメーカー値上げ一巡後は様子見

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、1月中旬にかけて電炉メーカーの値上げが一巡した後は、およそ一週間にわたり様子見で推移している。近年の働き方改革により、市中間屋筋も年末年始休暇を以前に比べ長めにする傾向がある。1月前半は問屋筋の営業もバラつき、大手自動車関連などについては第2週からの稼働となったことで、ヤード入荷も低調に推移したH2炉前実勢価格は51,500～52,500円中心、高値53,000円見当。

【大阪地区】 電炉値上げの一巡に加え湾岸筋も引き合い強める

大阪地区では、1月17～19日にかけて電炉値上げが一巡したが、電炉間の上げ幅は500～2,000円と大きく異なり、電炉入荷に変化をもたらした。また、複数の湾岸筋も品種によっては電炉高値と同等もしくはそれに近い水準で引き合いを強めている。このためヤード筋の出荷先が電炉だけでなく、湾岸へも分散している。H2炉前実勢価格は、大阪地区が51,500～53,500円、一部高値54,000円見当。姫路地区が52,500～

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、1月24日午後時点のもの)

行事予定

ー 2月の主な行事予定ー

February

■2月2日（金）

- ・沖縄ブロック会議(対面)

■2月8日（木）

- ・第3回 自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上に向けた検討会(WEB)

■2月9日（金）

- ・自動車リサイクル士更新講習会(第2回目)

■2月13日（火）

- ・第10回 広報部会(WEB)
- ・J-FAR(エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり)定例会(対面 & WEB)

■2月14日（水）

- ・中国・四国ブロック会議(対面)

■2月15日（木）

- ・J-FAR(樹脂リサイクル社会実装事業)定例会(WEB)

■2月16日（金）

- ・近畿ブロック会議(対面)

■2月22日（木）

- ・東北ブロック会議(対面)

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ

～自動車再資源協力機構（JARP）より～ 能登半島地震におけるフロン類・エアバッグ類集荷状況について

令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

自動車再資源化協力機構(JARP)から、本地震による「フロン類・エアバッグ類回収集荷状況について」以下のとおり情報提供がございましたのでお知らせいたします。(今後の状況によって変更となる可能性があります)

【集荷遅延地域】

- ・石川県（羽咋市、中能登町、かほく市、宝達志水町、津幡町、内灘町、志賀町）

※遅延は半日～2日以上

【現在も集荷不可が続いている地域】

- ・石川県（七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市）

※1/23時点

編集後記

この冬は暖冬との予想が出ていて安心していましたが、やはり冬には雪が降るもので、北日本地方や日本海側方面では例年のごとく降雪があるようです。ただ、私のいる福島県郡山市は冬の時期には雪が降り、例年少なからず家や会社での雪かきを何度かしますが、今冬は雪かきをしなくてもすんでいます。

先日レッカー屋さんと話をする機会があって色々教えてもらったところ、今年は雪が少ないけれど事故での出動は多く、特に目立つのが横転事故で、「どうしてこんなところで」と思うような場所での作業が多いとのことでした。雪道ではない分、油断してスピードの出し過ぎなのでしょう。本当に気を付けなければなりません。

また、最近レッカー屋さんが困っていると話していたのは、ハイブリット車やEV車のレッカー移動のことでした。特にEV車はその取扱いには細心の注意が必要で、構造上、電気が流れていないと全ての車輪が回らなくてレッカー移動に大変苦勞するそうです。私など動かなければ「吊り上げて運んでしまえ」と日常やっていますが、レッカー屋さんはそうはいきません。

2年前のこのニュースレター2月号でも、前任の永田部会長が編集後記にて運転技術を磨く必要性に触れていましたが、完全自動運転にはなっていない今、私達は十分な注意を払い安全運転を心がけ、レッカー屋さんにお世話にならないようにしたいものです。

(広報部会長 田村 幸男)